



認定NPO法人

**JHP・学校をつくる会**  
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2023

年度事業報告書

2024

年度事業計画書

# 2023年度 事業報告書

## 2024年度 事業計画書

---

### CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ JHP の活動・歩み・理念	4-5
■ 学校建設（カンボジア）	6-7
■ 学校建設（ネパール）	8
■ 衛生教育（カンボジア）	9
■ 初等科芸術教育支援事業	10-11
■ 音楽・美術教育支援事業	12
■ 教育支援（幸せの子どもの家）	13
■ CCH アート・プロジェクト	14
■ 成人識字教育事業	15
■ カンボジア体験ボランティア	16
■ モンゴル制服寄贈	17
■ 広報活動	18-19
■ 組織運営	20-21
■ 2023 年度活動計算書	22
■ 2023 年度貸借対照表・監査報告書	23
■ 2024 年度事業計画	24-30
■ 2024 年度活動予算書	31
■ （裏表紙）JHP 行動基準	32



# ごあいさつ

- JHP は 30 周年を迎えました -

日頃、全国各地から寄せられる皆さまの温かいご支援に心からお礼申し上げます。  
2023 年度は、新型コロナウイルスによる行動制限が緩和されたことに伴い、  
2019 年以来 4 年ぶりに実施したカンボジアへのボランティア派遣を再開する等、  
当会の活動も活気が戻りました。



また、2023 年 10 月 8 日には JHP 創立 30 周年を迎えたことに伴い、記念祝賀会  
を実施しました。会場には 130 名以上の方々にご来場いただき、当日ご都合が合わなかった方からも、  
多数のご寄付をいただきました。たくさんの応援をいただき、感謝申し上げます。

皆さまからの貴重なご支援により、私どもは 1993 年 9 月の設立以来、カンボジアを中心とする途上国で  
の約 400 棟の校舎建設寄贈をはじめ、芸術教育支援や識字教育等、子ども達が安心して学び、夢を大きく  
描くことのできる教育環境づくりを目指し、幅広い支援活動に取り組んできました。

ここまで長きにわたって活動を続けられましたのも、支援者の皆様のおかげであります。重ねて深くお礼  
申し上げます。

JHP はこれからも「できることから、はじめよう」をモットーに活動を続けてまいります。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

小山内美江子

小山内は 2024 年 5 月 2 日に老衰のため永眠いたしました。生前のご厚誼に深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

## ＼30 周年の記念祝賀会を開催しました！／

2023 年 10 月 8 日（日）に、JHP30 周年記念祝賀会を開催し、  
当日は約 130 名の方にお越しいただきました。

当日は代表の小山内も、ご子息の利重様とともに会場を訪れ、  
皆様と顔を合わせることができ、懐かしい方々との再会の場にも  
なりました。また、スペシャルサポーターの藤原紀香様も  
ご来場くださり、現地の学校支援を通して感じた内容を熱く  
お話いただきました。



カンボジア国王の最高顧問チア・ソパラ氏から「JHP が支援した学校で学んだ当時の子ども達は、今では  
医師、教師、エンジニア、投資家等で活躍し、カンボジア発展の礎となっています。JHP のこれまでの功績  
が常に彼らの記憶に残っていることを強く確信しています」とのお祝いメッセージが寄せられました。

その他、ヴァイオリニストの高木凜々子様によるヴァイオリン演奏や、現地より届いたビデオメッセージ  
の上映、8 月にカンボジアへボランティアに行ったメンバーによる活動報告等の場もありました。

同じテーブルで初めましての挨拶から始まった方々も、自然と会話が広がるような温かい雰囲気の中で、  
終始、会は進み、多くの皆様からの応援と、ご支援・ご協力あって迎えた 30 周年であることを実感する場  
となりました。

また、祝賀会開催にあたり、皆さまから多数ご寄付をいただきました。心から御礼を申し上げます。

今後とも皆さまの JHP への熱き応援の程、よろしく願いいたします。

# JHPの活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。 小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	9月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立。 カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	(写真A)
1994	JEN設立に代表小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。	
1995	阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。 カンボジアにプノンペン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	(写真B)
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。 アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	(写真C)
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。	
2000	10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記完了。 プノンペン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。 カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	
2002	ユニセフと合同でアフガニスタン支援実施。駐在員1名派遣。 JHP初の孤児院完成。CCH（幸せの子どもの家）支援開始。	(写真D)
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	1月1日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。 新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施（以降年1回実施）。 JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。	
2006	小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ開催。 代表小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。 代表小山内が第20回毎日国際交流賞を受賞。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生（ともいき）・地域文化大賞を受賞。 新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。 東日本大震災発生（3月11日）。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。	
2011	平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。 JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。	(写真E)
2012	JHP創設者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。 公益財団法人かめり財団より、「第5回かめり賞」の表彰を受ける。 JHP行動基準が制定される。（詳細は裏表紙を参照）	
2013	JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。 300棟記念校舎が完成。	(写真F)
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。 設立20周年を祝う、記念の集いを開催。 教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。	
2016	熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。（4月～） JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」が開始される。（8月）	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	
2020	公益財団法人社会貢献支援財団より、第54回社会貢献者の表彰を受ける。	
2023	パナソニックホールディングス株式会社より『NPO/NGO サポートファンドfor SDGs』組織診断助成通知を受ける。 JHP30周年記念祝賀会を開催。 「第3回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」教育の部を受賞。 第7回ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣）賞の表彰を受ける。	(写真G)
2024	パナソニックホールディングス株式会社より『NPO/NGOサポートファンドfor SDGs』組織基盤強化助成通知を受ける。 JICA草の根技術協力事業「カンボジア国 初等科芸術科教育普及体制構築事業」が開始される。（2月）	

# JHP の理念

JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行ない、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。



(写真 A) カンボジア活動隊派遣開始



(写真 B) 阪神淡路大震災救援活動開始



(写真 C) カンボジア教育省と合意書締結



(写真 D) CCH 支援開始



(写真 E) 東日本大震災支援活動開始



(写真 F) 300 棟記念校舎完成

## ■設立経緯

代表の小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の見えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。



(写真 G) 第7回「ジャパンSDGsアワード」外務大臣賞（推進副本部長賞）受賞

詳細はP21掲載

# 学校建設 (カンボジア)

## ■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者		主な支援内容								
			生徒数	教員数	校舎		トイレ		机/椅子	井戸 水タンク	手洗場	遊具	
					棟	室	棟	室					
368	ポチバラン小学校	ブレイベン州	468	12	1	5			125				
369	チョーチュレイ小学校	クラチエ州	90	4	1	3			75				
370	オンクナー小学校	コンボンズプー州	482	10	1	3			75				
校舎補修 (校舎再塗装)					(1)	(4)							
371	ブレイトロー小学校	スバイリエン州	393	9	1	3	1	3	75		1	1	
372	ワットスダイ小学校	バタンバン州	244	8	1	3	1	3	60				
373	マニャプロウ小学校	バタンバン州	335	16	1	4			4				
374	ブラソックレアック小学校	スバイリエン州	173	5	1	3			75				
375	スキア小学校	ブレイベン州	372	9	1	3	1	3	66				
付帯設備	ワットトゥールティエット小学校	スバイリエン州	347	11									1
付帯設備	メーサン小学校	スバイリエン州	311	11			1	3			1	1	
付帯設備	ブンブリャオン小学校	トゥポークモム州	321	7					25				
付帯設備	コンターナン小学校	コンボンチャム州	1515	27					24				
付帯設備	スラーチニエン小学校	バタンバン州	104	3						1	1		
付帯設備	ポーロング小学校	ブレイベン州	464	12									1
校舎補修 (ドアと窓の再塗装)	イヤーバアウ小学校	タケオ州	173	10	(2)	(6)							
校舎補修 (ドアと窓の再塗装)	チュレイトム小学校	スバイリエン州	217	4	(1)	(4)							
校舎補修 (窓への鉄作設置)	メーボン小中学校	ブレイベン州	662	29	(1)	(5)							
校舎補修 (校舎再塗装)	アンロンコプ小学校	バタンバン州	163	10	(1)	(3)							
校舎補修 (校舎再塗装・鉄柵)	バイドムラン小学校	バタンバン州	232	9	(2)	(6)							
校舎補修 (校舎再塗装)	バイドムラン中学校	バタンバン州	527	29	(1)	(5)							
<b>2023年実績</b> →			<b>7,593</b>	<b>235</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>4</b>	<b>12</b>	<b>604</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	
376	バンティアイチャックレイ中学校	ブレイベン州	438	11	1	1							

\*373校目の机、椅子は日本からのリサイクル品を170セット寄贈。教師用4セットのみ現地購入

\*実績の () 内の数字は、既存施設の補修棟数と室数を示します。2023年の実績には加算されません。

\*376校目は2023年度内に未完成のため、実績は2024年度に加算されます。

## ■支援概況



贈呈式にデコレーションされた校舎  
オンクナー小学校



贈呈式で新校舎をバックに誓いを述べる児童  
ブレイトロー小学校

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき、主に

- ①教室数の不足度
- ②校舎の老朽化や倒壊の危険性
- ③生徒数の増加程度
- ④校舎以外の設備の必要度



寄贈いただいた文房具を掲げ  
嬉しそうなお子もたち

をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

今年度はカンボジア 5 州に小学校 8 棟 27 室、校舎補修 9 棟 33 室、トイレ 4 棟 12 室、手洗い場 3 基を建設し、総受益者は生徒 7,593 名、教員 235 名の成果を得ました。

これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 376 棟 (着工済校舎を含む)、ラオス 1 棟とネパール 21 棟を加えた総実績は 398 棟となりました。

また、年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。



新校舎の前で記念写真

## プロジェクトの背景

国際機関や NGO 等の援助により、カンボジアの教育環境は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。また、長く続いた内戦の影響により 2024 年現在第 2 次ベビーブームに入り、子どもの数が急増している。このことから都市部、地方含む各学校では慢性的な教室不足が続いており、生徒が過密な環境で学んでいたり、正規の時間数が学べなかったり等の弊害が出ている。就学率は年々改善されており、小学校の粗就学率は 10 割を超えているが、中学校 6.5 割、高校 3.6 割となり、他の ASEAN 諸国と比べ低い水準となっている。

### ■カンボジアにおける校舎建設の実績

2022～2023 年度の教育省統計は公立の小学校は 7,338 校、中学校 1,248 校、高校は 571 校で合計は 9,157 校となり、前年度より 39 校増えています。その中で JHP は支援校 303 校（約 3.3%）の支援に携わっています。

### ■カンボジアと日本間の交流

2023 年度は、日本の支援者の方々を招いた贈呈式（コロナのためここ数年できなかった式を含む）を合計 12 回実施しました。

また、カンボジアでの現地の子ども達との交流を含むボランティア活動も再開し計 3 回、交流会は計 18 回実施しました。

### ■古くなった校舎も再塗装と修繕で若返り

BEFORE

AFTER



（上）バイドムラン小学校 廊下の壁の傷を補修し再塗装  
（下）イヤーバアウ小学校 教室の窓の補修と再塗装

学校への支援は新設だけではありません。

要請があれば、日本の皆さまからの支援を受けた校舎はもちろん、その他カンボジア政府や別の団体によって建てられた古い校舎などの施設の補修や再塗装も実施しています。

2023 年度は 7 つの学校で 8 校舎の修繕と校舎の再塗装を実施しました。



若返った校舎で気分も一新、勉強に励む児童たち

### ■支援者によるボランティア活動の再開



ボランティア活動に励む支援者さま

再塗装した 6 校の内 2 校は、訪問された支援者の方々がボランティア活動として実施されました。

支援者の皆様は大粒の汗をかきながら、手ごわい窓やドアのさび落としから始まり、校舎の壁や滑り台などの遊具にもペンキを塗って頂き、校舎・遊具ともに輝きを取り戻していました。

### ■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を寄贈



（左）マニャプロウ小学校 完成直後の校舎に並べられた机と椅子  
（右）マニャプロウ小学校 支援された机と椅子を使用中の生徒達

机と椅子 170 セットをバットンバン州のマニャプロウ小学校に寄贈しました。日本の机と椅子は独立していて、なお且つ頑丈なため、とても人気です。

2024 年度の寄贈に向け、関係者のみで椅子と机を修繕し発送予定です。

# 学校建設（ネパール）

## ■ネパール校舎累計で 21 棟 88 教室完成

2011年に始まったネパールにおける学校校舎建設支援活動は2023年度末までに21棟、88教室が完成しました。支援者の皆様のご協力に心から感謝いたします。

本年度は2校の贈呈式（バガワティ学校、サラスウォティ学校）を2024年3月13日と14日に開催することができました。校舎を寄贈していただきました支援者様には、JHPスタッフ一同、心より感謝申し上げます。テープカットを経て、新校舎の教室に入ると、真新しい机や椅子、白板、扇風機が設置されており、期待に胸いっぱい学ぶ子どもたちの姿が思い浮かばれました。贈呈式翌日に試験を控えている関係で忙しい中、当日はたくさんの先生方や子どもたち、地域住民の方々が参加され、花飾りやネパールのダンス披露で温かい歓迎をしていただきました。学校教育関係者や子どもたちのスピーチでは、寄贈していただいた支援者様やJHPへの感謝のメッセージをいただきました。



バガワティ学校



サラスウォティ学校



贈呈式の様子

また、贈呈式と並行して、今後の建設候補校調査を実施しました。ある学校の視察と聞き取り調査を経て、周りに高校がないために高校生まで受け入れているが既存の校舎が古いために学習環境が良くないことや、トイレや手洗い場等の衛生施設の数や質が不十分であること、学校を囲む塀がボロボロだったが故に食事中に野犬が乱入して噛まれて1名が亡くなったこと等、日本では考えられないような課題や出来事が発生していることが分かりました。今後は建設事業のみならず、学校に関わる当事者の皆様が少しでも快適に過ごすことができるような付帯施設の設備支援も注力する必要があると考えられます。

学校建設によって適切な場で学びが保証された子どもたちだけでなく、彼らの成長を支える教師や保護者、地域住民といった大人たちも恩恵を受けることができます。ネパールのコミュニティや学校管理者、学生、教師は、日本の贈呈者の皆様の寛大さと支援を高く評価し、この学校建設という素晴らしい仕事にご尽力いただいた方々に心から敬意と感謝の念を抱いています。

すし詰めの教室で勉強に励んでいる、ネパールの子どものための教育環境を少しでも改善するため、引き続き皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

### プロジェクトの背景

JHPの学校建設プロジェクトは、2011年にネパール東南部に位置するジャバ県で開始されました。ジャバ県では、学校はきちんと機能しているものの、校舎数が非常に不足し、子どもたちは教室の水準に達しない狭い部屋に押し込まれ、でこぼこな床、雨が降ると水漏れするタン屋根、設備の不十分な教室で勉強していました。こうした状況を調査により把握後、JHPはネパールでの学校建設プログラムを開始させることを決定しました。支援の目的は、学校校舎を建設すること、特に僻地の村に学校を建設することでした。この支援により生活に困窮した貧しい農家の子どもたちがこれまでより良好な環境で教育を受けられるようになりました。



# 衛生教育（カンボジア）

## ■ 衛生環境を整え、安心、安全な学校生活を

2023年度はトイレ4棟12室、手洗い場3基、給水タンク1基を必要とされている小学校に設置、並びに消毒用アルコール等の衛生用品を3校に支援し、各校の衛生環境の改善に取り組みました。

トイレがない学校や安全な水へアクセスできない学校がカンボジア全土に、まだまだあります。引き続き、トイレと給水タンクの整備が必要とされています。



ワットスタイ小学校  
新設されたトイレ



スラーチニエン小学校にて  
①新設された手洗い場



②手を洗う児童



③新設された給水タンク



## ■ 衛生教育の実施

学校建設事業担当のスタッフが、新校舎の建設前の最終協議会にて計5回、紙芝居などを使用し衛生教育を実施しました。

また、日本の大学生が、訪問先の小学生を対象に手作りの資料を使って手洗いの重要性を元気よく力説すると共に、手洗いの正しい方法を指導しました。



(上) 衛生指導をしている JHP スタッフ  
(下) 衛生に関する本を読む児童



300名近い児童の前で  
手洗いを指導する大学生



大学生の指導後、実践する児童



### プレイパオ小学校の校長先生の声

お名前：ニッ・サムール

支援者の皆様、いつも温かい支援を頂き感謝しています。2022年にご支援頂いた手洗い場は、大切に使用させていただいております。子ども達は掃除の後や飲食する前に手を積極的に洗うようになりました。その甲斐があつてか、誰一人ウィルスの病気に感染することなく元気に学校へ通っています。心から感謝です。

今後も支援者の友人と家族のご健康とご成功を祈っております。



支援により完成した手洗い場

# 初等科芸術教育支援事業

## ■タケオ州でのパイロット事業の完了

カンボジア教育省による「芸術教科」設立の決定に伴い、2017-2022年にかけて、カンボジアの小学校の芸術教育（音楽・美術）にふさわしいカリキュラム作り、教科書・指導書作り、トレーナーなどの人材育成を目指して進めてきた『初等科芸術教育支援事業』。

カンボジア全土への普及を目指し、モデル地域であるタケオ州の小学校4校の先生への教員研修の実施、研修を受けた先生方の授業実践のフィードバックを元にした教科書・指導書のブラッシュアップを継続的に行ってきました。

\*ナショナルトレーナー：フノンペン教員養成大学の芸術科教員であり、5カ年事業で強化研修を受けています。

### ①ナショナルトレーナー\*が タケオ州小学校4校の先生方を対象に研修を実施



音楽研修

美術研修

### ②ナショナルトレーナー\*を対象とした フォローアップ研修会の実施



授業実践

音楽研修

### ③研修を受けたタケオ州小学校4校の先生方の 授業をモニタリング



美術授業観察

### ④タケオ州小学校4校の先生方を対象に フォローアップ研修の実施



美術授業体験

音楽授業体験

ナショナルトレーナーとフォローアップの研修内容を検討…▶

## ■パイロット事業 成果

このパイロット事業を通して、タケオ州4校の教員合計24名が芸術教科を教えることができるようになり、1,000人以上の生徒達が芸術教育を受けることができるようになりました。事業は完了しましたが、対象の4校が他校の模範となるモデル校であり続けられるよう、引き続き、協力体制を続けていきます。

### プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通じた自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

# JICA 草の根技術協力事業 新たなフェーズが開始しました

当会の事業の柱の一つである「初等科芸術教科教育支援事業」が2023年3月にJICA草の根技術協力事業（パートナー型）として、再採択されました。

今回第2フェーズに取り組む背景として、2023年にカンボジア教育省は全国の公立小学校において、週1時間が芸術教育に割り当てられることが決定されましたが、芸術教育を指導できる教員が著しく不足しているため、定期的に芸術教育を実施している公立学校は、ほぼ存在せず、全国に芸術教育を普及する上で大きな弊害となっているためです。

当会では2016年から2021年までJICA草の根パートナー事業として、初等科芸術教科シラバス、生徒用教科書、教師用指導書、現職教員プログラムを開発しました。また、プノンペン教員養成大学にて、芸術教科を普及できる教員（ナショナルトレーナー）8名の育成を行いました。カンボジアの全ての子ども達が学校で芸術教育を受けられる環境が整備されているとは言い難く、指導できる教員のさらなる育成は急務の課題です。当フェーズでは、人材育成を主軸に芸術教科教育普及のための基盤の構築に取り組めます。

2023年4月以降、現地協力機関と本事業の活動内容や計画に関して協議を行いつつ、開始準備を行い、2024年1月にJHPとJICA間の契約締結が完了し、2月から本格的に開始しました。

## ■新フェーズ 事業概要

### <実施期間>

2024年2月～2027年1月

### <プロジェクト目標>

初等科芸術教科普及の基礎が構築される

### <3年間の成果目標>

- ◆新たなナショナルトレーナー（芸術教科を指導できる教員）の育成
- ◆第一版の生徒用教科書、指導書、シラバスの改訂案を教育省に提出
- ◆教員養成大学（TEC）のシラバスの改訂および指導法に関する教材の開発
- ◆初等科芸術教科普及計画案を教育省に提出

### <現地関係機関>

カンボジア教育・青年・スポーツ省（Ministry of Education Youth and Sports）

カンボジア文化芸術省（Ministry of Culture and Fine Arts）

カリキュラム開発局（Department of Curriculum Development）

教員養成局（Teacher Training Department）

初等科教育局（Primary Education Department）

プノンペン教員養成大学（Phnom Penh Teacher Education College）

バタンバン教員養成大学（Battambang Teacher Education College）

シムリアップ州教員養成校（Siem Reap Provincial Teacher Training Center）

カンダール州教員養成校（Kandal Provincial Teacher Training Center）



合意形成会議の様子



現地事業推進メンバー集合写真



合意形成会議の様子

# 音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

## ■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

1996年より実施している音楽・美術教育支援事業では、対象地域において芸術教育を現地主体で継続して実施していくために必要とされる支援を行ってきました。

今年度は、音楽教育はバットンバン州とシェムリアップ州を対象に、美術教育はプノンペン都・カンポット州・スバイリエン州を対象に取り組みました。

楽器不足で音楽の授業実施が難しい学校や教育機関等へも継続的に幅広く支援を行っています。

## ●美術（カンポット州、スバイリエン州、プノンペン都）

### 【美術の授業の継続、

#### 自校開催の絵画展などを目的とした画材の寄贈】

カンポット・スバイリエン両州の32校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を後方支援するために、画材の寄贈を実施しました。



カンポット州・スバイリエン州・プノンペン都での画材寄贈

### 【ミツバチの一枚画コンクール】

㈱山田養蜂場様が主催する当コンクール。

第11回のコンクールには、計9名の生徒達が海外部門で入選しました。



## ●音楽

### 【音楽教員育成のための特別強化研修】

音楽教育の実施を望んでいるにも関わらず、指導ができる教員がないために実施ができていない教育機関を対象に、研修を実施しました。

#### <研修概要>

—対象教員：バットンバン州芸術教員2名  
シェムリアップ州芸術教員2名

—研修期間：10日間（5日間×2回）



### 【地域や学校への楽器寄贈】

楽器寄贈のリクエストを受けた各教育機関への楽器寄贈も継続的に行っています。



# 教育支援 幸せの子どもの家



支援者の皆さまへ  
CCH 理事長 メチ・ソカ

CCHを長らくご支援いただいている日本の支援者の皆様はじめ、小山内代表・JHP理事・職員の皆様に心より感謝申し上げます。

CCHは学校環境の整備と教育の質に力を入れているため、近隣住民からの学校に対する評価は高く、年々生徒数は増加しています。皆様の暖かいご支援のおかげでこれまで運営することができました。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



朝礼の様子



授業風景

## ■CCH 概要

- 全生徒数：107名（男子58名、女子49名）
- CCHが支援している小学生：5名
- CCHが支援している中・高校生：9名
- CCHが支援している大学生：2名

## 今後の支援体制について

カンボジア政府の新たな方針として、規模の大きな児童養護施設を除き、全国の児童養護施設を廃止する動きがあり、これを受けCCHも2023年に児童養護施設としての機能を閉じ、2024年より学校運営を中心とした教育施設となります。今後、呼称は児童養護施設ではなく「CCH学校」となります。CCHが独立して運営ができるようになったのも、ひとえに皆さまの長年の温かいご支援の賜物です。

CCH理事とJHP職員との間で、今後の支援体制に関する協議が複数回行われ、2024年以降は下記の新たな支援を実施することが決まりました。

## CCHから高校を卒業した青年に対する大学進学のための奨学金の支援

大学への進学を希望しているにも関わらず、経済的な理由によって進学が困難な学生を財政面で支援します。大学進学を支援し、将来カンボジアの発展に貢献できる人材を育成することを目的とします。

カンボジアでは義務教育期間（小学校から高校まで）は授業料が無料ですが、大学の受講料は自己負担になり、支払う余裕がない青年は進学を諦めざるを得ません。カンボジアの第3期教育への進学率は2022年の世界銀行の統計によると15%となり、他のASEAN諸国と比べ未だ低い水準にあります。しかしながら、大学への進学率は経済発展と共に年々増加しています。青年の学びたい気持ちを支えるため、引き続き、皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。



CCHが支援している中高生たち

### プロジェクトの背景

ポルポト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002年に当会が施設を建設し、創設に携わった。主にゴミ山で生活していた孤児等を調査面接し、就学意欲のある16人の支援から開始した。CCHはCenter for Children's Happinessの略称。日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。2024年より独立した私立の学校として運営している。

# CCH アートプロジェクト

## ■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ・ワールドスカラシップ基金の支援により 2015 年より実施しています。子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

### ●アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。美術では、絵画だけでなく立体作品づくりなど、楽しいけどちょっと難しい課題制作に挑戦します。音楽では、クメール音楽と外国曲を含む歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏に取り組んでいます。



左) アクリル絵の具で大きくて長い紙にグループで絵を描きました。  
中央) 鍵盤ハーモニカの指の使い方の練習  
右) 世界で一つだけの王冠の作成中。

### ●CAP (CCH Arts Project) Festival を開催

恒例のアートフェスティバルは、昨年に引き続き、今年も無事開催することができました。日頃の練習成果を発表するステージパフォーマンスや作品の展示を行い、多くの来場者の方々に楽しんで頂きました。しかし一番楽しんでいたのは、子どもたちでした。



①みんなで演奏の後にソロ演奏がありました



②手作りの王冠をかぶって  
ランウェイウォーク



③3匹の子ブタの劇。  
長いセリフもばっちりの名演技



CAP フェスティバルは、毎年子どもたちがデザインした T シャツを着て開催します。今年のテーマは「バンブーシュート (タケノコ)」。「大切に育てられたタケノコは大きく元気に育つ」というカンボジアの言い伝えです。「色んなタケノコがあっていいじゃないか」、そんな気持ちを含めて、子ども達の個性が溢れるタケノコが描かれています。

# 成人識字教育事業

2023年8月に開講した第5期目となる識字クラスは、2024年3月に修了しました。

今年度は100名の受講生が仕事と両立しながら、粘り強く勉強を続け、修了試験合格を目指しました。

## 第5期 識字クラス概要

- 開講場所：コンポンチャム州 バティエ郡 サンダエックコミュニティ内にある4村  
(スワイプレイ村、バンティエチャス村、スラーコッコ村①、スラーコッコ村②)
- 開講期間：8カ月間
- 開講日及び時間：月曜から土曜まで週6日(午後6時から8時まで)
- 総生徒数：100名(各村25名) 男性26名、女性74名
- 現地カウンターパート：識字教員4名、スーパーバイザー1名、アシスタントスーパーバイザー1名



識字クラスの様子



識字クラスの様子



月次ミーティングの様子

## 過去の受講生へのインタビュー

- ◆名前：チョーン・チョ (50歳)
- ◆主なお仕事：稲作と家畜の飼育

### Q1 識字クラス受講後、生活する上で何か変化したことはありますか？

一番変わったことは、衛生に対する考え方です。

受講前は家の隣にある田んぼで用を足していましたが、屋外での排出はいかに危険で不衛生かが分かり、親戚同士でお金を貯めて敷地内にトイレを作りました。また、昔と比べてお腹を壊す回数が減りました。村内での識字クラスの受講者数が増えるにつれ、村全体がきれいになったと思います。トイレを使用する人が増え、ゴミを道に捨てる人が減ったからだと思います。

### Q2. 収入に変化はありましたか？

特に大きな変化はありませんが、家計簿をつけることができるようになったので、無駄な支出は減ったと思います。



新設されたトイレと一緒に

収入面で大きな変化があった受講生は多くはないですが、衛生に対する意識が変化したおかげで健康状態の改善が見られたり、SNSを使用できるようになったことで、他の人と繋がることができるようになったなど、生活に必要な不可欠な知識が身についたことが分かりました。誰ひとり取り残される人がいないよう、今後もカウンターパートと協力しながら取り組んでいきます。

「事業の背景」に関しましては、P28 2-4 成人のための識字事業 事業の背景 をご参照ください。

# ボランティア派遣

## ■8月カンボジア体験ボランティア 8月20日～8月28日

活動内容：ブランコ建設、衛生ワークショップ、CCHでの芸術活動、他団体訪問等

活動場所：プノンペン市、スバイリエン州

参加者：大学生及び大学院生 10名・社会人 6名 計 16名



＜ブランコ建設①＞  
深さ 50cm の穴掘り



＜ブランコ建設②＞  
石⇒モルタルの敷き詰め



＜ブランコ建設③＞  
ペンキ塗り



＜ブランコ建設④＞  
無事に完成しました！



＜芸術教育見学＞  
カンボジアの歌やダンス



＜CCH 交流①＞  
廃材を利用した創作活動



＜CCH 交流②＞  
大きな動物が  
できあがりました！



＜活動報告会＞  
各隊員の思いを伝えました

### プロジェクトの背景

JHP 創立以前の 1991 年に、小山西代表が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて学生と活動を共にし、成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまでに海外は、カンボジアを中心とする複数の国々へ派遣。国内は、阪神淡路大震災や熊本地震など救援活動にボランティアを派遣している。



# モンゴル制服寄贈

JHP では、当会在籍のモンゴル出身の職員からのニーズ情報提供により、(株)共同印刷様より寄贈いただいた未使用の制服 304 着をモンゴルの必要とされる学校・団体へ贈る活動を 2023 年 9 月に行いました。

今回寄贈先となったモンゴルでは、人口の約半分が首都に集中しています。さらに都市人口の約半分がインフラ等の整備されていない『ゲル\*地区』で生活をしており、冬は暖房が無く、あらゆるものを燃やして暖を取るため、大気汚染物質が発生し生活環境の悪化が問題となっています。また、学校の数も少ないため、一つの学校に大人数の子どもが通っており、二部制での授業実施など、教育環境もよくありません。

今回寄贈いただいた制服は、そのような過酷な環境下で暮らすゲル地区の方々に寄贈し、活用していただくことになりました。\*ゲル：季節ごとに移動する遊牧民の人々が伝統的に住む、組み立て式住居



寄贈頂いたカーディガンは、ウランバートル市内の公立学校に務めるスタッフ 57 名の方に提供しました（写真右）。

ウランバートル市の学校では、急速な人口増加に伴い、教育施設の整備が追い付かず、二部制・三部制といった授業体制を取らざるを得ない事態が生じています。1つの教室を2~3つのクラスが交代し使用しているため、生徒が教室の掃除をする時間はありません。そのため、学校スタッフが教室、トイレなどの清掃を行っています。彼らは最低賃金で、子ども達の衛生面を守って下さっているので、1日でもおしゃれをして気分転換になればという思いで提供しました。カーディガンを受け取ったスタッフの方々は、「同じ服を着ると1つのチームとして、よりまとまりますね、日本人の皆様の広い心に感謝しています」と仰っていました。



寄贈された制服を着て記念写真



お揃いの発表会衣装になりました

贈呈訪問した際には、子ども達が発表会で披露するダンスの一部を披露してくれる場面もありました。様々な課題を抱える家庭から集まっている子ども達ですが、それでも明るく、歌、ダンス、勉強などに一生懸命に取り組む姿に感動しました。



ダンスを披露してくれた子ども達

この度のモンゴルへの制服寄贈にあたり 40 名の方から貴重なご寄付をいただき、無事に現地へと届けることができました。ご寄付をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も「できることから」をモットーに、支援ニーズに合わせた取り組みをしていきたいと思っております。皆様の温かいご支援とご協力の程、よろしく願いいたします。

# 広報活動



## 7/29 高木凜々子チャリティーコンサート開催 浜離宮朝日ホール

「カンボジアの子ども達へ音楽の楽しさを伝えたい！」という思いから始まったJHP チャリティーコンサートは、今年で18回目を迎え、長くご出演頂いていた天満敦子さんが突然の頸椎損傷によるリハビリの途上におられたため、今年度もヴァイオリニストの高木凜々子さん、ピアニストの五十嵐薫子さんにご出演をご快諾頂き、「高木凜々子チャリティーコンサート」として開催することができました。



当日は、クラシックから日本の曲までを含む11曲の、お2人の息の合った演奏のほか、JHP 創立30周年記念の特別企画として、「子ども達に本物の音楽の楽しさを届けたい」という思いで小学校を訪問し、クラシック演奏活動を長く続けてこられた高木さんの想いを聞くといったショートインタビューも行いました。

総勢約430名の方々にご来場いただき、「素晴らしい演奏を聞けて、チャリティー支援にも参加できて良かった」とのお声も多数いただきました。

ご報告 入場料・募金 1,905,696 円  
支出合計 1,218,389 円  
チャリティー額 687,307 円



次回は2024年7月27日（土）に、今年も浜離宮朝日ホールにて開催を予定しています。

### 諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	○年2回発行。部数1,500部。 ○カラー印刷、透明封筒の活用を継続。 ▶データのPDF送信数は61件（'24/3 下旬現在）
ホームページ運営	○JHPの諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。
メールマガジン	○年19回発行。閲覧者1,092人（'24/3 下旬現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとTwitterを活用した。 ▶FaceBookフォロワー：1023人（'24/3 下旬現在） ▶Twitterフォロワー422人（'24/3 下旬現在）
講演・講義・説明会等	○役職員が年5回実施した。
来訪者受け入れ	○プノンベン事務所が186名を対応した。
カレンダー販売	○580部（壁掛け型:301部・卓上型:279部）を販売した。

# イベント出展

今年度、当会は年間5回のイベントへ出展参加しました。

各イベントでは、JHPの活動紹介と各種事業の紹介資料の配布を行い、1人でも多くの方にカンボジア・ネパールの教育状況について知ってもらい、支援の輪を広げることに努めました。

また、教育支援の資金を集めるために、カンボジア・ネパールの民芸品・チャリティーカレンダー販売を行いました。各イベントには、JHP会員の方もご来場下さり、楽しみながら実施することができました。



# JHP 活動紹介

JHPの活動内容や、カンボジアやネパールの教育事情について紹介し、国際協力や国際支援をともに考える機会として、活動紹介オリエンテーションを実施しました。

今年度は主に、中学・高等学校の社会科学習や修学旅行の一環として訪問して下さった学生さんや、ボランティアに参加して下さいました方々へ向けて行い、合計5回の開催で25名の参加がありました。

活動紹介後に、カンボジアへ贈る鍵盤ハーモニカの楽器清掃ボランティアに参加した学生の方々からは、

「ボランティアに参加することで自分もカンボジアの子ども達のために協力できているのだと思い、嬉しかった」

「小さなことでも、自分たちにできることからやっていきたい」といった感想の声がありました。



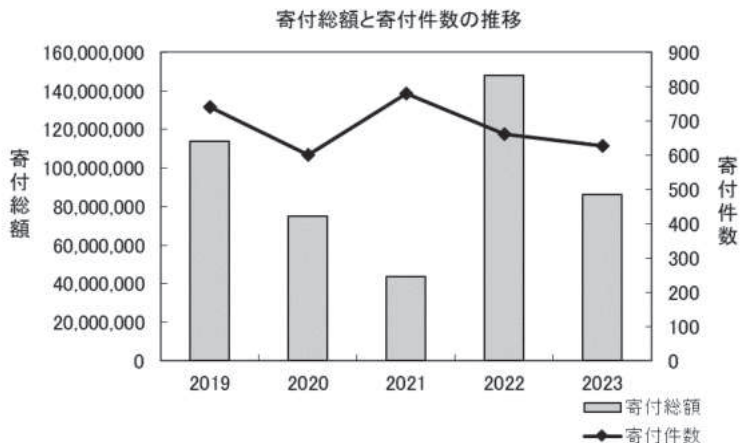
# 組織運営

会員数 367人 (2024年3月現在)

寄付金 627件 86,379,953円

	正会員	賛助会員
一般	236	102
特別	8	7
学生	5	9

前年比11名減 新規会員17名



## 皆様からの各種ご寄付・寄贈

### ●寄付サイト

2つのサイトより57,881円のご寄付を受けました。

### ●募金型自販機

75,890円

### ●クレジットカード

利用数：15件（828,690円）

### ●スカイウィッシュ チャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムより、JHPへマイレージをご寄付いただけます。

個人の方はもちろん、修学旅行で獲得したマイルを寄贈いただく等、学校単位でのご寄付の輪も広がっています。寄贈頂いた貴重なマイルは、JHP活動地へのスタッフ渡航や現地の教育関係者を招聘する際に活用させていただいています。

今年度実績	
受領マイル	約146万マイル
利用マイル	2,826,500マイル
年度末残数	約2,995万マイル



寄贈下さった淑徳与野高校の皆様と

## ■「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」に継続採択されました

この度 JHP は、昨年に引き続き、パナソニックホールディングス株式会社が実施する『Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs\*』に採択されました。

\*このファンドは、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて活動に取り組む NPO/NGO が、持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織課題を明らかにする組織診断や具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成しています。



助成通知贈呈式にて

2023 年度は応募総数 64 団体のうち「海外助成」8 団体、「国内助成」9 団体、合計 17 団体・助成総額 2,914 万円が助成対象事業として選ばれました。

当会は「組織基盤強化に向けた仕組作りと実践 BSC\*を用いた多世代型組織への変革基盤強化」を目的に申請し、外部専門委員会の選考やヒアリングを経て、海外継続助成として採択されました。1 年間の活動に 1,750,000 円が助成されます。

2023 年度に 30 周年を迎えた当会は、本助成を通じて、海外の学びたい子ども達への持続的な教育支援活動を実現していくべく、引き続き、組織基盤強化に励んでいきたいと思っております。

\*BSC：バランススコアカード（事業計画フレームワークの一つ）

## 各種会議の報告

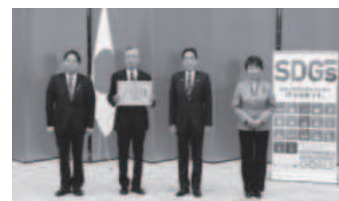
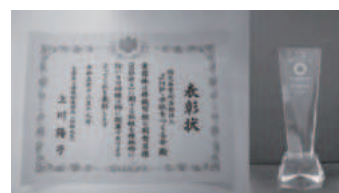
会議内容	2023年度の主な内容・実績
会員総会	2023年6月24日（土）開催。 出席者89名（委任状含む）。 2022年度事業及び決算報告、 2023年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第151～153回まで3回実施。
運営協議会	理事と事務局の情報共有、 理事会審議事項の協議・検討の場として 11回実施。

### ■第7回「ジャパンSDGsアワード」外務大臣賞 （推進副本部長賞）を受賞

この度の受賞にあたり、2023年12月19日、SDGs推進副本部長である岸田内閣総理大臣、林官房長官、上川外務大臣らの出席のもと首相官邸にて受賞式が行われ、賞状とトロフィーが授与されました。

JHPのカンボジアを中心に30年に渡って行ってきた教育支援活動が、約400棟の学校建設をはじめとする物資支援（ハード面）のみならず、教員養成等「教育力向上」に繋がる支援（ソフト面）など多岐に渡り、「教育」「衛生環境の向上」「生活水準の向上」「社会的発展」に繋がる包括的な支援活動であるとして、その実績が評価されました。

日頃よりご支援・ご協力をいただいている皆様に改めて、感謝申し上げます。



第7回ジャパンSDGsアワード  
外務大臣賞授賞式にて

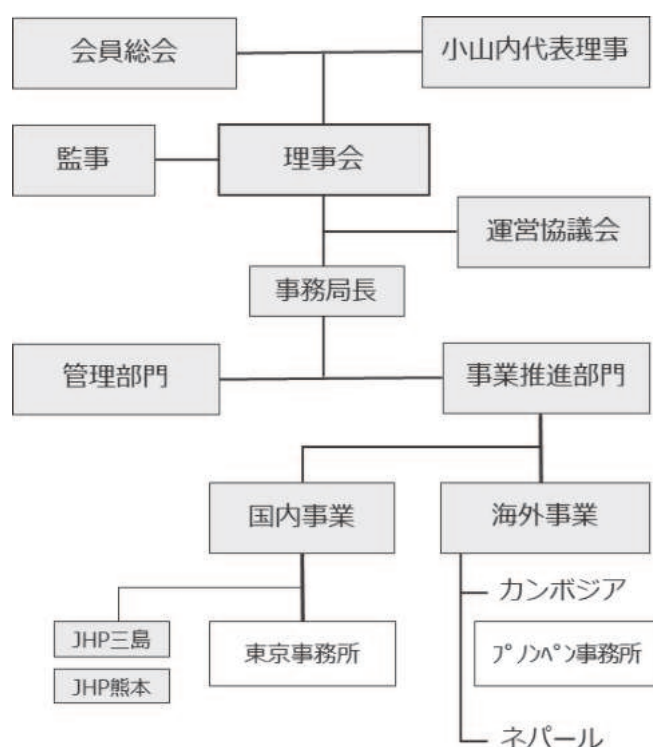
## 助成金・実施実績

今年度は、下記の助成金を申請し、採択されました。

名称	対象事業
連合「愛のキャンパ」	成人識字教育事業
（公財）ウェスレー財団	成人識字教育事業
（公財）庭野平和財団	成人識字教育事業
（公財）JKA（競輪補助事業）	ボランティア派遣
「Panasonic NPO/NGO サポート ファンド for SDGs」	組織運営
歳末助け合い運動による 地域福祉助成	広報事業
（一社）MDRT日本会 クオリティ・オブ・ライフグラント	広報事業

## 運営体制（2024.4現在）

### ◎JHP 組織図



### ◎役員

代表理事	小山内美江子
理事	佐伯蘭子、山岡修一、佐谷隆一 脇田知子、伊藤多栄子、中込祥高、 矢加部咲、野村政道、辰川はる奈
監事	高橋久

### ◎東京事務所

区分	2022年4月	2023年4月	2024年4月
職員	3名	3名	3名
職員（契約）	0名	0名	0名
パートタイマー	2名	2名	2名

### ◎プノンペン事務所

区分	2022年4月	2023年4月	2024年4月
職員（日本人）	4名	2名	3名
職員（ローカル）	5名	5名	4名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名



## JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。

- \*開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
- \*より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
- \*諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。

- \*主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
- \*国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることからはじめよう」を実践します。

- \*人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。

- \*プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。

- \*現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
- \*現場の人々と直接交り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。

- \*支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。

- \*役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

JHP・学校をつくる会 代表理事

山内美江子

## アカウンタビリティ・セルフチェック(ASC)への取り組み



2016年3月25日、当会は国際協力NGOセンター（JANIC）が普及の中心となるASC2012にチャレンジし、必須項目は33のうち32、強化項目は8のうち6項目をクリアし、2010年2月に実施したときよりも6項目多くクリアすることができました。左のマークはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）についてJHPが適切に自己審査したことを示しています。今年度もASC2012の全項目クリアに向けて組織力の強化を進めます。



認定NPO法人

**JHP・学校をつくる会**  
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2 2F

TEL 03-6435-0812 FAX 03-6435-0813

E-Mail [tokyo-office@jhp.or.jp](mailto:tokyo-office@jhp.or.jp) ホームページ：[www.jhp.or.jp](http://www.jhp.or.jp)

Twitter：[@JHP\\_tokyo](https://twitter.com/JHP_tokyo) Facebook：JHP・学校をつくる会

本書の印刷は株式会社プロネクサス様にご協力頂きました。